

福井市【スマホアプリを通じた3R促進】

(1) 地域課題分野

3R=Reduce Reuse Recycle

[] ①交通、 [] ②防災、 [] ③環境、 [] ④健康福祉、 [] ⑤産業、 [] ⑥農林水産、 [] ⑦教育、 [] ⑧行政、 [] ⑨観光・文化、 [] ⑩その他

(2) 課題

・ごみの排出量を削減するだけでなく、再利用や再資源化の取組を促進する必要あり。
・ごみは「不要な」ものであり、生活における個人の意識外に置かれがちである。また、細かい分別に伴う煩雑さが負担感の要因となると考えられる。そこで、市民が3Rに自主的・意欲的に取り組めるような仕組みや、分別における市民の負担感軽減が必要。

(3) 現状

・本市では1人1日当たりのごみの排出量は減少傾向にあるが、全国の市町村の平均に比べると依然として多い（令和2年度：福井市868g 全国平均865g）。
・ごみ処理に年間20億円以上の費用がかかっているほか、焼却に伴い大量のCO2排出等による環境負荷もある。
・リサイクルできるのに分別されず焼却されてしまう紙類が年間約8,800トン、食べられるのに捨てられてしまう食品ロスが年間約4,300トンある。
・イベントや出前講座等での啓発の他、Aiチャットボットでのごみ分別案内、「雑がみ分別袋」の配布による分別促進を実施。

(4) ステークホルダー

関係者・団体、関係市町・部署等	役割・立場
食品の小売店（スーパー等）	食品の販売を行う。消費・賞味期限等の情報を保有する。
リサイクルショップ	中古品の買取・販売を行う。買取品目や価格等の情報を保有する。
全市民	ごみの分別や減量に取り組む主体

(5) 地域課題解決の糸口

・画像認識、AIなど最新技術の活用により、生活の中で3Rが自然に促されるような仕掛けとなるアプリを製作できないか。（以下、機能の例）
・購入品の管理機能（例 レシート読取による食品の消費・賞味期限の登録）
・写真撮影による画像認識を利用した3Rサポート機能（例 使い切りレシピの検索、分別区分の自動判別、リサイクルショップの案内やオークション機能）
・ごみ分別の意欲を高める仕組み（例 ごみ袋をカメラで読み取ると分別の適正度を評価し、評価に応じアプリ内で利用できるリワードを得ることができる）

(6) 提供可能な資産・データ

・市が保有するオープンデータ 「ごみ収集日一覧」、「ごみ分別情報一覧」
・福井市の3Rイベント情報